

乳幼児親子がゆったり過ごせる居場所づくり

取組の背景・目的

「児童館運営・整備推進計画」において、鷺宮児童館は乳幼児機能強化型児童館に移行することになったことから、今まで以上に、乳幼児親子が利用しやすい児童館にするための検討を行い、館運営を進めてきた。また、令和6年4月に校区内の小学校が統合し、新校舎内に子どもたちの居場所・遊び場であるキッズ・プラザと学童クラブが開設された。前年度末まで児童館内に併設されていた学童クラブも統合され、児童館内の学童クラブ室のスペースに空きができた。また、6月に行ったことも会議の中で乳幼児と交流したいという子どもたちの意見もあり、乳幼児親子への時間と場所の提供を充実させるとともに、小中学生と乳幼児親子が交流できる機会を地域の力を得ながら作っていくこととした。

取組の概要

【利用者の声を活かした活動】

- ・乳幼児親子対象の子育てなかま作り支援事業（ひまわりキッズ）において、体操、パネルシアター、ボランティアグループによるプログラムのほかに、保護者同士や職員との交流や会話、利用者アンケートの意見を積極的に取り入れた活動内容を実施した。

【ホール利用の時間延長】

- ・乳幼児親子のあそび場として、ホール利用の優先時間を延長した。

【乳幼児親子利用スペースの拡充】

- ・旧学童クラブ室に座卓、ベビーチェアを配置し、飲食スペースを作り、電子レンジや冷蔵庫やベビースケールも設置した。飲食できる時間も11時から16時までと時間を延長した。
- ・図書室は小学生以上の利用をメインとしてテーブルや椅子の配置をそのままに、室内に幼児向けの大型キッチンなど遊具を置き、3歳児から6歳児も利用しやすい空間を作った。
(職員体制は通常時と同じ)

工夫点・留意点

- ・保護者との関係作りのために職員から声をかけ、話しやすい雰囲気作りに努め、普段の会話から悩みや相談もできるような関係作りを心がけた。
- ・土曜日に父親も一緒に参加できる企画（サタデープロジェクト）を実施。父親が一人で子どもを連れてきても安心できる居場所として定着してきて、参加者も増えた。
- ・同じ地域の保護者同志が繋がれるように、共通の話題から会話が弾むように促した。
- ・ホールが利用できる時間は外からではわかりづらいため、外から見える位置にウェルカムボードを設置。ウェルカムボードにはかわいいイラストをつけて、当日行っている活動を表示するようにした。
- ・飲食スペースは新たに設置したため、広報に力を入れた。(児童館だよりや館内掲示を継続的に実施) また、実際に利用した乳幼児親子の声を聴き、改善を加えた。

取組の効果

- ・利用者の要望や意見を取り入れたことにより、リサイクル活動（ぐるぐる交換会）が実施できた。また、職員との日常の会話をきっかけに、前向きな気持ちで子育てをしている保護者が講師役をつとめ、自身が気持ちを切り替えることができた経験を話してもらった。他の利用者も共感したり、励まされる機会が持てた。
- ・利用者の意見を反映した活動を実施することでさらに新たな提案をする利用者が増えた。
- ・活動内容が豊かになることで、乳幼児親子対象の行事（さぎのみやん☆乳幼児フェス）の開催に繋がった。行事のスタッフとして、乳幼児と交流したい小学生がスタッフとなり活躍する場もできた。地域のボランティア、小中学生がスタッフとして活動したことで、乳幼児親子も「地域の中で安心して子育てしている」気持ちの持てる基盤ができた。
- ・飲食スペースの整備により、児童館の滞在時間が長くなり、落ち着いて過ごすことができるようになった。

課題・今後の展開

- ・児童館改修工事の予定があり、工事後、運営を委託していくが、児童館を支えてくださっている地域との繋がりを継続させていくために検討を進めていきたい。
- ・乳幼児機能強化型ではあるが、児童館として小学生、中高生も利用できるよう限られたスペースを工夫して、すべての利用者層にとって、安心して過ごせる居場所を作っていきたい。

ウエルカムボード



日常のおもちゃセッティング



もぐもぐルーム(乳幼児親子飲食スペース)



ママ講師



ぐるぐる交換会(ママ企画)



ぽぺっとタイム



音あそび広場



カフェ



サタデープロジェクト(パラバルーン)



さぎのみやん☆乳幼児フェス

